

令和2年8月4日

ホテル宿泊療養におけるポビドンヨード含嗽の 重症化抑制にかかる観察研究について

大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター
次世代創薬創生センター長 松山晃文

【背景】

SARS-CoV2 は口腔内でウイルスが増殖、唾液中にウイルス量が多い特性
COVID-19 患者の唾液中ウイルス消失低減で、肺炎など重症化抑制可能と想定
ポビドンヨードは広範囲なウイルスに対し、殺ウイルス効果を有する

【これまでの研究成果】

ホテル宿泊療養 COVID-19 患者を対象（府健康医療部のご協力）
ポビドンヨード含嗽の有無と唾液 PCR 陽性頻度を評価



結果：ポビドンヨード含嗽で宿泊療養者の唾液ウイルス陽性頻度は低下する

【本観察研究の概要】

ホテル宿泊療養施設でのポビドンヨード含嗽の重症化抑制にかかる観察研究
大阪府市と連携のもと、大阪ホテル宿泊療養施設を研究 field とする。

入所者にポビドンヨード含嗽をして頂く。

当該含嗽者データ、既存非含嗽例データを大阪府市から提供頂き、比較検討。

宿泊療養から医療機関への入院搬送を endpoint として評価。

【大阪府市・府立病院機構・はびきの医療センター連携の枠組み】

大阪府市の役割：宿泊療養の健康観察項目と医療機関入院情報の提供

はびきの医療 C：研究倫理申請・審査、研究の実施、解析

府立病院機構：研究リソースのサポート

【波及効果】

ポビドンヨード含嗽による COVID-19 患者唾液中ウイルス低減・消失の加速

患者さんへの寄与：唾液ウイルスの誤嚥による COVID-19 肺炎への悪化抑制

医療現場への寄与：重症例比率低下による医療負荷の軽減